

故塩川高敏君追悼展を鑑賞に尾道へ

上原 昇 (2組)

同期の洋画家、塩川高敏君(8組)が亡くなったのは丁度1年前の11月だった。尾道市立大学の副学長を務め、もうすぐに退官という時の逝去は本当に残念であった。9月に奥様の由宇子さんから立派な作品集(画集)と一緒に追悼展の案内が届いた。塩川君の終焉の地、尾道の市立大学美術館(2か所)で10月20日から12月9日までの開催である。たまたまこの時期、夫婦で京都を訪れる計画をしていたが、急遽、訪問先を尾道に変更した。

11月6日、新幹線で福山まで、在来線に乗り換え尾道へ、約4時間の旅。尾道は初めて来た町である。駅前からバスに乗って「浄土寺下」で下車。町の中にひっそりと佇む美術館が「MOU尾道市立大学美術館」だ。

会場は3ブロックに分けられ、塩川君の作品が年代別に展示されている。これまで国画展で何度も対面した「浮游」シリーズも懐かしく再見したが、1964年(高校2年)の作品「鉄工所」も印象的であった。

追悼展は駅近くの「大学サテライトスタジオ」でも開催。こちらは尾道(瀬戸内海)の風景シリーズ(「ダム」など)が展示されていた。

展覧会鑑賞後は、映画「東京物語」(1953年、小津安二郎監督)や「転校生」(1982年、大林宣彦監督)でもお馴染みの尾道の名所を散策する。ロープウェイで登った千光寺から見た尾道水道の風景は、山国育ち(塩川君も含め)の私にとっては鮮烈な印象であった。尾道で一泊した後、普段なかなか行く機会のない山口の瑠璃光寺、広島原爆ドームなどを訪ね2泊3日の中国地方の旅を終えた。

(2018年11月10日 記)

次ページ以降にスナップ写真5葉を掲載

【写真1：尾道市立大学美術館にて、「浮遊 - '17」】



【写真2：塩川君、高校2年生の作品「鉄工所」】



【写真3：サテライトスタジオにて、「ダム」2002年】



【写真 4：千光寺から見た尾道水道】



【写真 5：紅葉が色付いた山口の瑠璃光寺】

